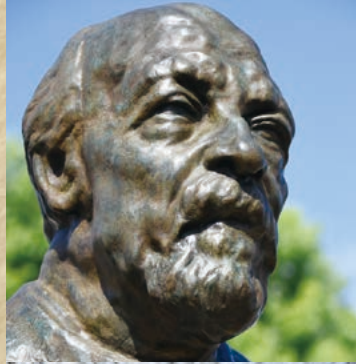


Takasaka Sculpture Promenade



高坂彫刻プロムナード 高田博厚 彫刻群



Sculptures of Hiroatsu Takata

高田博厚と東松山

田口弘（元東松山市教育長）が高田博厚と親交のあった柳田知常（国文学者、俳人）に師事していたことから、1974年に高田と出会い、その後も1980年に中央公民館（現松山市民活動センター）で高田博厚彫刻展・講演会を開催するなど親交を深めるようになった。

そのころの東松山市では、高坂駅西口土地区画整理事業を実施しており事業の完了に際し、田口が「一人の一流作家の作品で飾る彫刻通りが実現できれば、全国に誇れる彫刻通りになる」と提言し、田口は高田に話を持ちかけ、高田はそれに応じた。

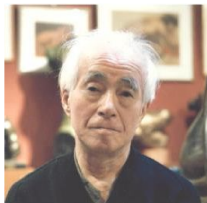
1986年に2体、1987年に14体、1989年に11体、そして1994年に5体を設置し現在の高坂彫刻プロムナードの形になった。

2000年度には、高田博厚生誕100年記念彫刻展を東松山市ほか2都市（前橋市・盛岡市）で開催。博厚の没後30年にあたる2017年度には記念展を東松山市ほか3都市（安曇野市・福井市・鎌倉市）で開催。また、東松山市では、博厚の命日に記念イベント「思索の灯」を開催した。



高田博厚顕彰事業を応援しています

高田博厚関連事業は、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）により、企業からの寄付を活用しています。



企画住宅のベストセラー

株式会社 **リマインド**
REMIN D
<https://www.remind.co.jp/>

東松山市教育委員会
発行 令和 5年 11月
TEL:0493-23-2221 (代表)

高坂彫刻プロムナード

高田博厚彫刻群

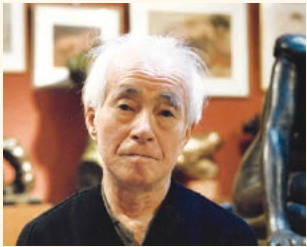


高坂彫刻プロムナード

東武東上線高坂駅西口から西に延びる通りの歩道には、およそ1kmにわたって高田博厚の彫刻作品が32体並んでいます。彫刻の台座には作者の著作から抜粋された短文が添えられ、作者の作品に対する思いを感じることができます。一人の一流作家による彫刻作品が、これほど多く並ぶ通りは、全国的にも類を見ないものです。ゆっくり散歩をしながら、素晴らしい彫刻を鑑賞してください。

彫刻家・随筆家

たかた ひろあつ
高田 博厚
(1900~1987)



撮影：田口弘

石川県鹿島郡矢田郷村(現七尾市岩屋町)に生まれた高田博厚が美術に目覚めたのは14歳の頃である。行きつけの書店で『白樺』と『美術新報』を目にし、岸田劉生の作品に衝撃を受ける。それから『白樺』を創刊号から全て取り寄せ、初めて本物の西洋美術に触れる。

中学卒業後に上京した博厚が、友人の紹介で高村光太郎を訪ねると、高村は17も年の離れた博厚を対等に扱った。

博厚が実際に彫刻の制作に入ったのは、高村光太郎から彫刻台を借り受けた21歳の時であった。作るものは全て高村に見せ、高村もまた他人には決して見せることのない作りかけの作品までも博厚に見せた。1931年に博厚がフランスに発った後、高村が「君が去ってしまって、彫刻のことを語り合える者は誰もいない」と手紙に記すほどに信頼関係を築いていた。

フランスに渡った博厚は、その年の冬にノーベル賞作家として有名だったロマン・ロランと出会う。この頃の博厚は、自分に自信が持てず、ロランから彫像を依頼されても困惑するしかなかった。しかし、ロランとの交流は、博厚の思想に大きな影響を与え、ロランの博厚に対する厚遇は、博厚の孤独で頑なに心を溶かし、博厚に自信を与えた。博厚は、ロランを「もっとも親密な『人格的師』」として仰いだ。

1957年に帰国することになった博厚は、フランスに渡ってから制作した作品を全て壊し、大量の本だけを持ち帰った。ライレ・ローズのアトリエは、その後、画家の野見山暁治が引き継いだ。

帰国後は東京新宿区西落合に住み、日本美術家連盟委員、日本ペンクラブ理事、東京藝術大学講師などを務める。1966年に九州産業大学芸術学部創設に関わってからは、鎌倉市稲村ガ崎に構えた住居兼アトリエにおいて制作に専念した。

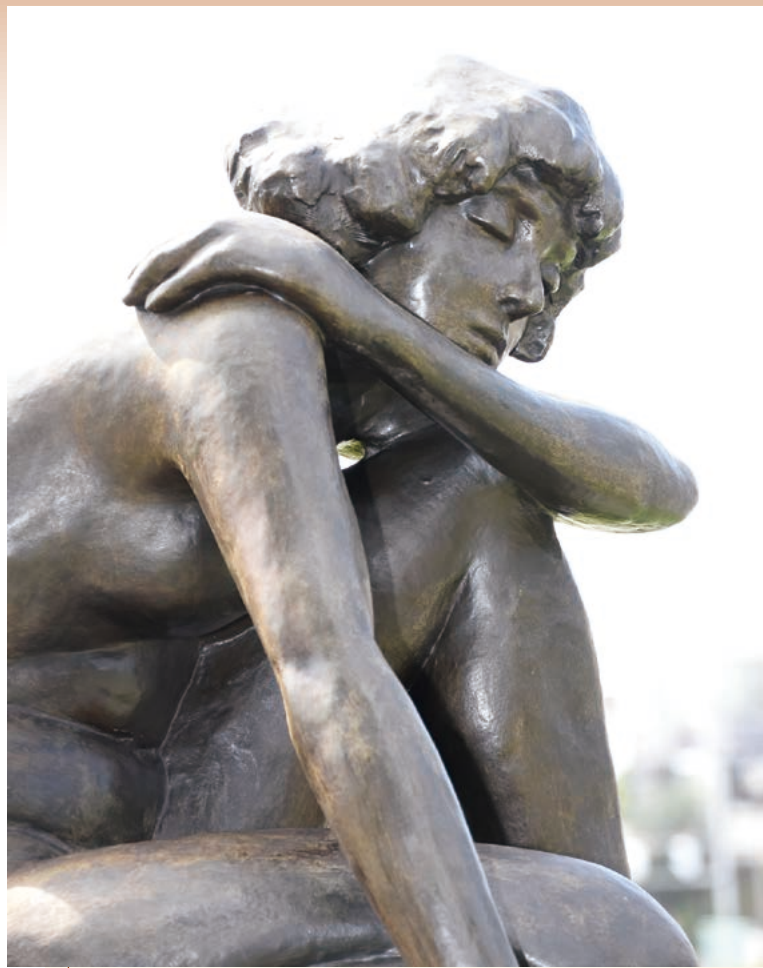
略 歴

- 1900年(明治33年) 8月19日、石川県に生まれる。
- 1902年(明治35年) 父の弁護士開業により福井市に移住
- 1913年(大正 2年) 旧制福井中学入学(現福井県立藤島高校)
- 1918年(大正 7年) 上京。高村光太郎と会い、以降生涯に渡った友情を築く。
- 1919年(大正 8年) 東京外国語学校(現東京外国語大学) イタリア語科に入学。
- 1921年(大正10年) 同校を退学。沢田庚子生と結婚。この頃から彫刻を始める。
- 1922年(大正11年) コンディヴィの『ミケランジェロ伝』を翻訳、岩波書店から出版する。
- 1927年(昭和 2年) 高村光太郎に促されて武者小路実篤主唱の「大調和展」に作品数点を初めて発表する。
- 1931年(昭和 6年) 妻と4人の子を残して単身フランスへ渡り、以降主にパリに暮らす。スイスのロマン・ロランに招かれ、彼の家に滞在していたマハトマ・ガンジーを描く。
- 1933年(昭和 8年) レオン・ドゥーベル友の会、フランス文芸家協会の依頼により、詩人レオン・ドゥーベル像を制作。
- 1936年(昭和11年) 淡徳三郎とともに在欧日本人を対象とした「日仏通信」を発刊。
- 1940年(昭和15年) 1939年に勃発した第二次世界大戦により、ドイツに占領されたパリにおいて毎日新聞社囑託の特派員となる。
- 1944年(昭和19年) ハリ解放の直前、当時の駐独大使の命令により在仏日本人と共にベルリンへ移される。
- 1945年(昭和20年) ドイツの降伏によりソビエト軍に保護される。日本送還を望まず、フランスを目指したため難民として収容所で1年半を過ごす。
- 1946年(昭和21年) 収容所を出た後、生死をさまよう旅をしてフランスに戻る。
- 1949年(昭和24年) 日仏間文通再開を機に、読売新聞社囑託の特派員となる。
- 1951年(昭和26年) 第4回カンヌ映画祭に日本が初参加。日本代表関係者となり、帰国まで務める。
- 1957年(昭和32年) 帰国。新制作協会会員、日本美術家連盟委員、日本ペンクラブ理事、東京藝術大学非常勤講師などを務める。
- 1958年(昭和33年) 高村光太郎賞選考委員となる。
- 1966年(昭和41年) 鎌倉に住居とアトリエを建て、大野常と再婚。
- 1970年(昭和45年) 高橋元吉・高田博厚二人展(前橋)
- 1980年(昭和55年) 東松山市中央公民館(現松山市民活動センター)で高田博厚彫刻展・講演会
- 1987年(昭和62年) 6月17日、鎌倉市の病院で死去。享年86歳、鎌倉霊園に眠る。
- 1992年(平成 4年) 高田博厚作品を常設展示する豊科近代美術館が開館。
- 1997年(平成 9年) 高田博厚作品を常設展示する福井市美術館が開館。



1 遠望

制作年／1981年



2 大地

制作年／1978年





3 水浴

制作年／1969年

ことばの「身振り」によってではない。内面の思念が要約凝集されて、もっとも簡潔に一元化して「存在」している。これが真の「形」なのだ。彫刻とはそれ以外のなにものでもない。

※文は各彫刻に添えられた作者の言葉



4 アラン

制作年／1932年

彼はモンテーニュやゲーテの直系子孫なのである。「哲学とはもっとも深い意味において自分を見出すことである。人間の連続を。」

アラン

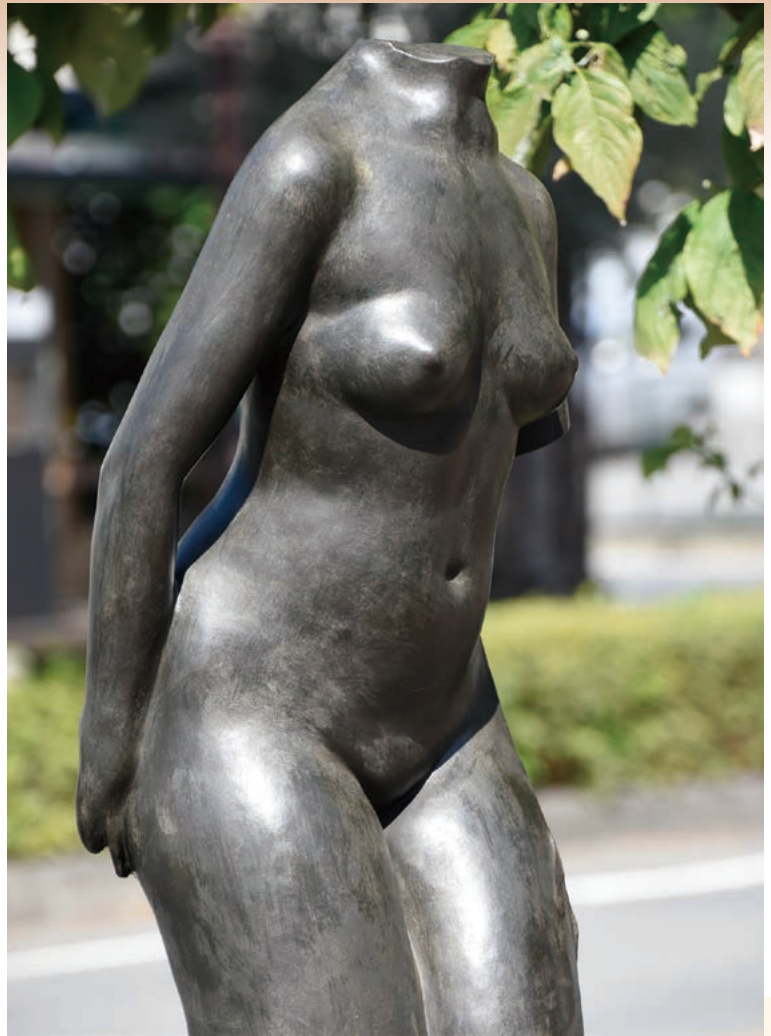
(1868年～1951年)
フランスの哲学者。主著に「芸術論集」・「幸福論」などがある。博厚はマルチネの勧めでアランと出会う。その年に胸像を制作し、親交を深める。



5 海

制作年／1962年

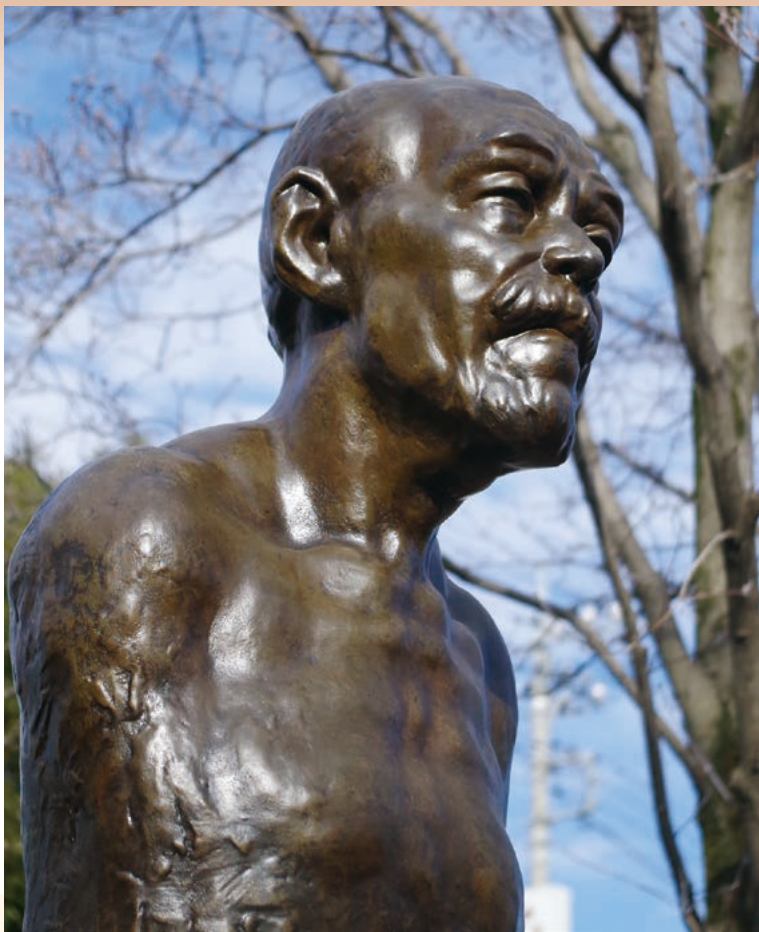
ある日、陽暮れに近い時刻に海岸にたたずんでいたら、にわかには天地一切が薔薇色のもやに包まれてしまった。空も海も地面ももう区別がつかない。そうして一面のばら色の中に、空にも海にも地にも、ちらちらと金色に輝くものがある。もやの動きなのだろう。物音も水の中のように遠のいてしまった。風景そのものが恍惚状態にとけてしまっている。僕は茫然としていた。「自分」しかないのだ。しかもそれが何か広大無辺なものに包まれていて、実に懐かしいのだ。



6 女のトルソ

制作年／1965年

首も手もないトルソの美しさは近代の発見と言えよう。昔は「美に対する観念」というより、むしろ藝術品を求める注文主が「完全姿態」を要求した。しかし、発掘された古代作品が、首や腕がない時、より本質の「美」を示していることへの感覚的知恵を近代人に与えた。



7 高村光太郎

制作年／1959年

日本の彫刻界で彼のように聡明確実な腕を持った者は一人もいなかった。その上彼の世間を相手にしない孤高な魂はそれに気品を与えた。彼は木盆にヴェルレーヌの詩、「われは選ばれたる者の怖れと喜びを持つ」を原語で自ら彫りつけていた。

高村光太郎（1883年～1956年）

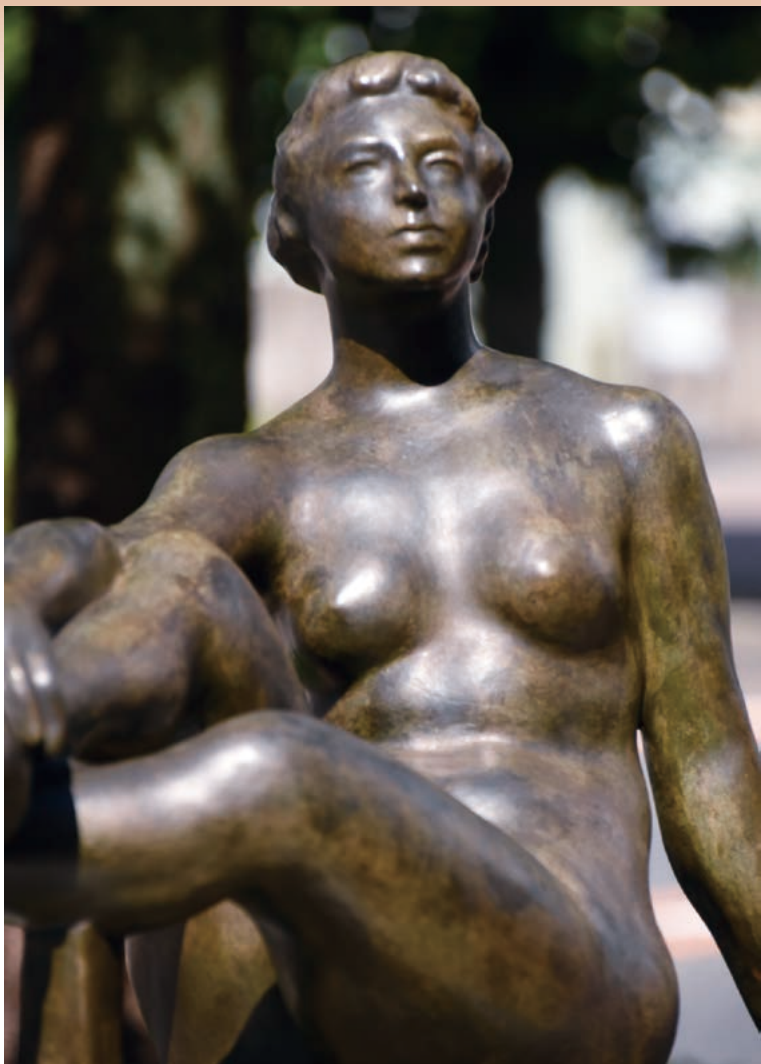
東京府下谷区西町（現東京都台東区）出身の彫刻家・詩人。詩集「道程」・「智恵子抄」が有名。1918年、博厚は上京してまもなく、友人に連れられ高村のアトリエを訪れる。高村は、博厚を彫刻の道へ導き、博厚にとって唯一の先輩であり、友であった。



8 カテドラル

制作年／1937年

ロダンが『フランスのカテドラル』の中で、ランスの寺を「跪いて祈る女」と云っているのは、勿論君は知っている。僕がはじめてランスの寺で受けた感動は、後年ギリシアのシリアで受けたものと同質である。春の小雨の降る日、細い道に入って右にまがったら、不意に眼の前に、雲の流れる濡れた空の下に、膝を祈り、胸を張り、合掌し天を仰いで若い女が祈っていた。ランスのカテドラルが……。



9 憩い

制作年／1961年

真の「空間」とは「自然」の中に「自我」が生むものなのだ。高い藝術作品がこれを示している。



10 女の大トルソ

制作年／1964年

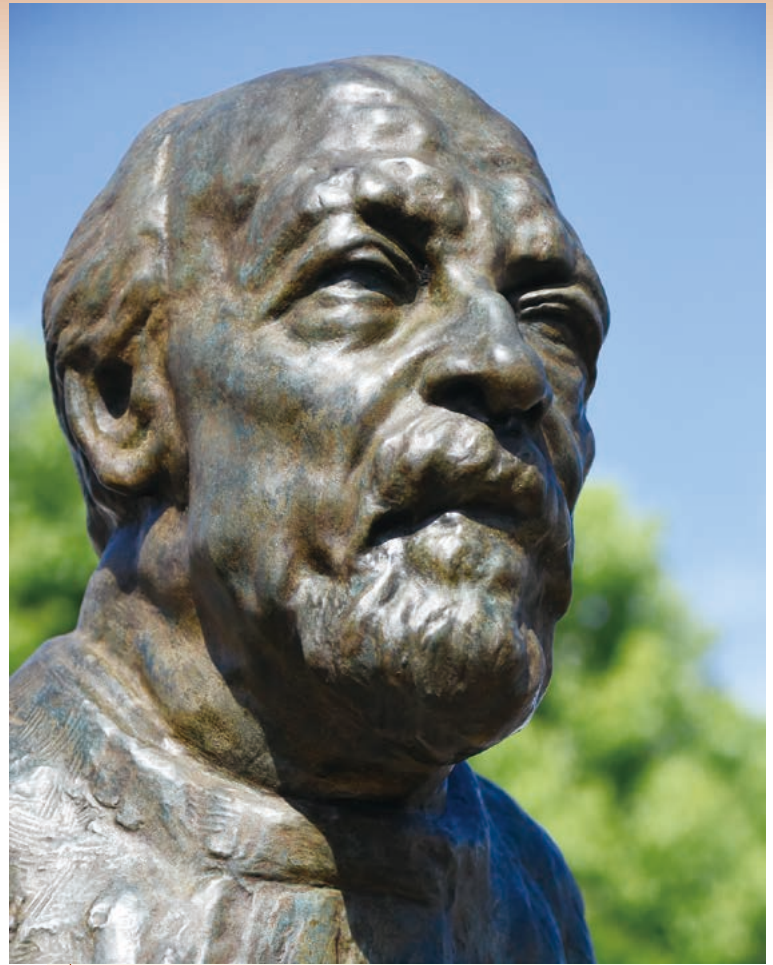
一つの姿態、一つのトルソ。これは多様の外界から「選ばれた」形である。構造はここではじめて存在理由を持つ。そしてたとえば、私は一生無限に「トルソ」を作り続けるだろう。



11 在No.2

制作年／1981年

彫刻が真の「彫刻」でありうるのは、あらゆる藝術作品に共通する一つの普遍性、形而上なものが「形」を通して内奥からにじみ出ている「存在」であることだけである。

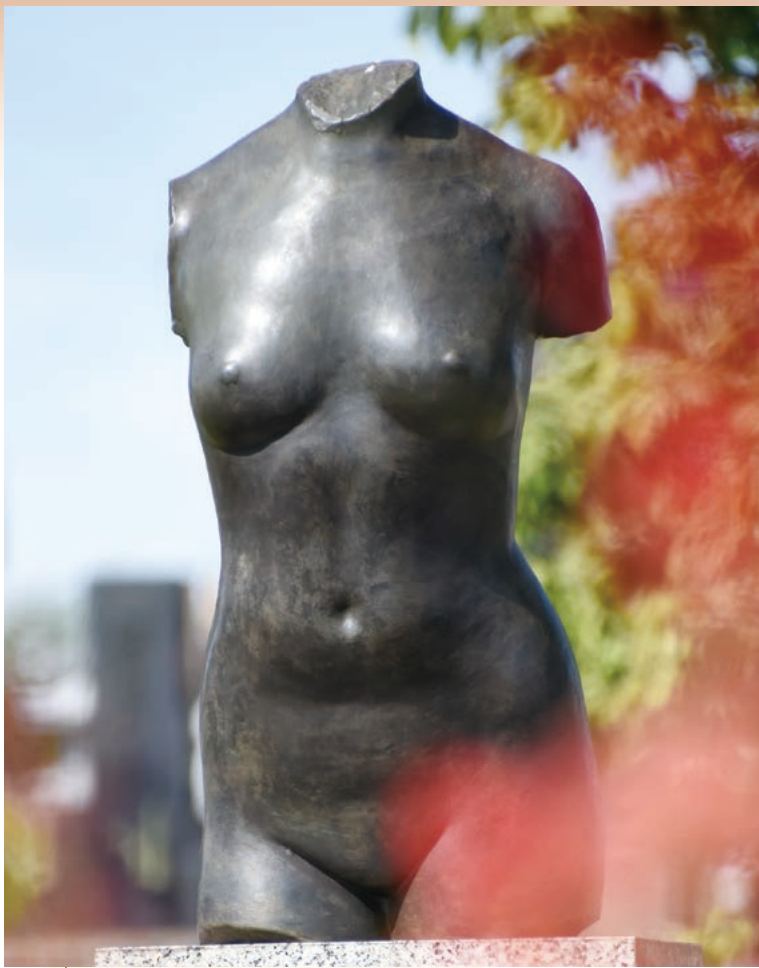


12 ポール・シニャック

制作年／1961年

それから次々と部屋の絵のコレクションを見てまわった。セザンヌの三十号の風景、これは驚くべき傑作だ。僕はうなった。シニャックもうなっている……。

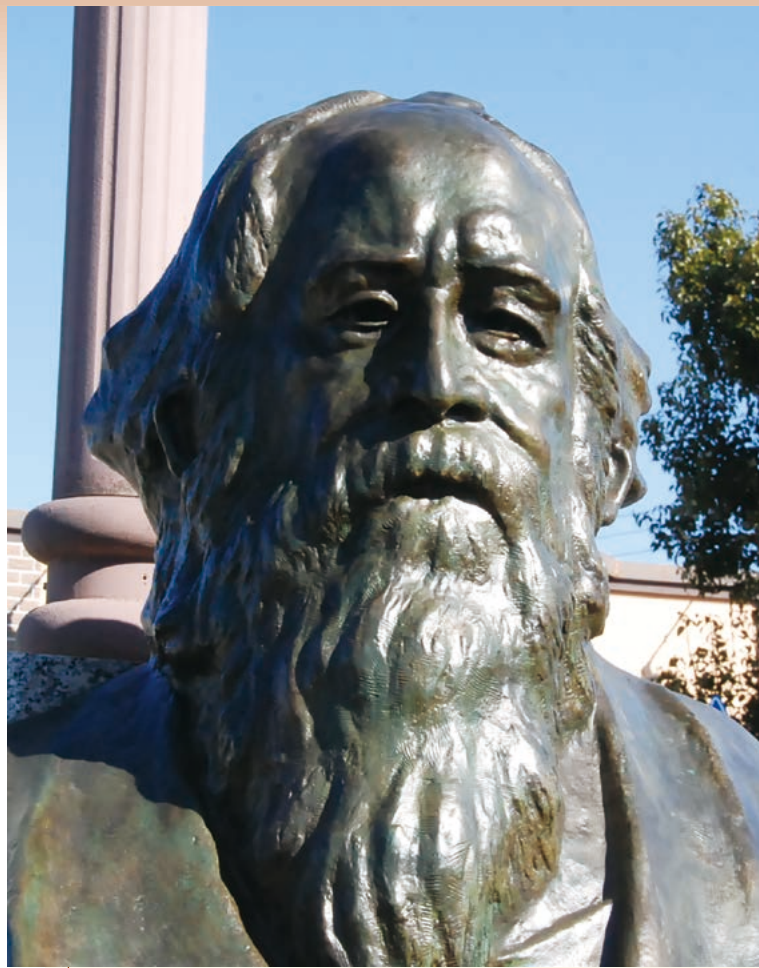
ポール・シニャック（1863年～1935年）フランスの画家。代表作に「サン＝トロペの港」・「赤い浮標」などがある。1931年、博厚はシニャックの家に招かれ、芸術について語り合う。当時無名であった博厚の資質を見抜いたシニャックは、主唱するアンデパンダン展に推薦する。



13 女のトルソ

制作年／1963年

どのように完全な姿態を巧みに写しても、それは真の「形」とはならない。人体の一部を現わしても、それが極限の「調和」をえているならば、それこそ本当の「形」である。



14 タゴール

制作年／1979年

タゴールの絵-それはお伽話と詩と神秘とが一つになっている「たのしみ」である-に彼の精神風土、詩魂、思想の原形質があると、私は思うのである。タゴールの思想形体は難かしいものではないのだ。彼の本質はひじょうに単純素朴なのである。彼の絵がよくそれを示しているだろう。

タゴール (1861年～1941年)

インドの詩人・思想家。詩集『ギーターンジャリ』でアジアで初のノーベル賞受賞(文学賞)。博厚が帰国後に手がけた著名人の肖像彫刻のひとつ。依頼を受けて製作した。



15 女のトルソ

制作年／1973年

藝術品はその「思念」を、それが包まれている詩と幻で私達に伝える。それで私がマイヨルの作品に地中海を感じる時、私の想像は作品をも裏切らず、私をもあざむかないであろう。付けられた「題」は少しも干渉して来ない。一つの女のトルソ。



16 棟方志功

制作年／1979年

棟方は、私が幼時の風絵を連想したように、素朴な民衆作家から出発した。当時日本では、柳宗悦が民衆作品の美しさを一般に教え、陶器の浜田庄司がこれを享け継いだ。棟方はこの空気の中で育った。私は長い間日本を離れていたため、彼の約三十年間の仕事を知らなかったが帰ってきて彼の仕事を見て、彼がもう「版画家」を超脱した本当の美術家であるのに感動した。

棟方志功

(1903年～1975年)
青森県出身の版画家。1966年、博厚が鎌倉にアトリエを構えた際、同じ鎌倉に住んでいた棟方と知り合う。博厚は、棟方の作品や仕事をみて、「版画家」を超脱した本当の美術家であるとして感銘をうける。



17 空のトルソ

制作年／1978年

画家が一定の額の中に、風景や静物や人物を構成するように、彫刻家は内部のものが形を構成する知恵を学ぶ。この意味で、私にとって人体も肖像も同じことである。「形」とは内部から押し出る力の極限限界なのだ。これを捉えること、すなわち、内部の力を一元的な形体・簡潔率直な形に要約するのが彫刻であろう。彫刻とは純粹な形而上な術であり、音楽と共通する。



18 新渡戸稲造

制作年／1976年

私の人物像は「似ていない」とよく言われる。ある一時の面しか見えていない者はそう思う。当然だろう。けれども、本当の肖像彫刻というもの、(私が考えているところでは)「人間」の容貌にそれが経てきた「時間」の層、その厚みが出なかったら意味を失うだろう。

新渡戸稲造 (1862年～1933年)

盛岡城下鷹匠小路下ノ橋詰 (現岩手県盛岡市) 出身の教育者。主著に「武士道」などがある。1976年、博厚は盛岡市に依頼されて胸像を制作する。制作にあたって人物像を調べるうちに、新渡戸の国連での苦悩を知り、それを表現したと言われている。



19 裸婦立像

制作年／1963年

創作行動とは孤独な行為である。ことに彫刻藝術は、「心ある者」のみをその前に立ち止まらせ、そして無限に語りかけてくれるものであろう。彫刻自体が独りあるものなのだ。



20 宮沢賢治

制作年／1971年

「私の賢治」で好い。それは素朴実直な東北人、土壤に根を張った辛抱づよい一律に凝まった人間存在。私が打たれたのはその「単純」な徳性であり、もしそれに「詩人」とか「思想家」などという調味料を加えようとしたら、私自身が混迷してしまうだろう。……同じ東北人でありながら啄木と賢治は対蹠的な存在である。

宮沢賢治（1896年～1933年）岩手県稗貫郡里川口村（現花巻市）出身の詩人・童話作家。代表作に「銀河鉄道の夜」などがある。1971年、博厚は谷川徹三に勧められ、賢治の弟の清六からもらった数枚の写真を基に彫刻を制作する。作った後で眺めていると、賢治の「空気をまどってきた」と最も気に入った作品として、元吉の像と並べてアトリエに飾っていたという。



21 空

制作年／1978年

直立像が両腕を持つ場合、その位置の決め方がいかにむずかしいか。マイヨルはそれに苦心した。彼は直立姿態に彫刻本質を感じ、一生をかけた。



22 憩う

制作年／1976年

マイヨルは「形」を再発見した。彼はそして「自然」の中から「思想」をくみとる。その純化したのが「形」なのである。



23 男のトルソ (ヘラクレス)

制作年／1973年

「ベルヴェデレ」の首も腕もない一つのトルソは、「ラオコン」の身振りが説明するよりもっと真に自由に「人間」を示している。ミケランジェロはそれを知り、彼の作品でそれを私達に教えてくれた。



24 女のトルソ

制作年／1973年

トルソがそれだけで完全作品になるためには、よほどの力量、というより作者の内面的充実がいる。単純に見えるから、そこに無量のものを満たすのがむずかしいのである。古代作品にはこれがあった。



25 礼拝

制作年／1982年

私がいる家のすぐ後ろの丘の上のサン・ミシェル寺の鐘がなる。夕べの祈の鐘である。この山峡の高みにあるアムンシアータ修道院の神父が私に言ったことがある。「私は40年この山から一步も下に降りないで、毎日海の潮を見ていました……」



26 高橋元吉

制作年／1970年

高橋元吉は私の一生の友だった。生き方も歩き方も二人はずいぶんちがっていた。しかし、自我の内部が命令するもの、精神の秩序、この点で二人は全く一つであった。

高橋元吉（1893年～1965年）
大正から昭和にかけて活動した日本の詩人。書店・煥乎堂社長。博厚は、尾崎喜八から元吉のことを聞き、元吉の詩に興味を持つ。講演に行った前橋で元吉と会い、以後、親密な交友を続ける。渡仏に際し、元吉に書いてもらった色紙は、フランスの部屋に飾られていた。



27 在No.1

制作年／1980年

「主よ、日は傾き夕暮が迫ってきましたから、どうか私たちと共にいてください……」「ルカ伝」の中の、イエスが復活して弟子たちのところに現れ、食事を共にした折の弟子たちの言葉である。



28 女のトルソ

制作年／1965年

姿態や構造に過剰な「説明」がなく、ただ「黙って在る」ことがそれに接する者に「無限に語りかけ」てくる。これが美術の本質だ。言いかえると首も手も足もないただ「人間の中心なる胴体」だけで「美」を示せる作家が本当の彫刻家だ。



29 横たわる女

制作年／1969年

ただ親密な中で、歩みたどってきた私達の精神の姿を語り合いたい。形に触れ得る喜び、どのような話にも、常に私たちの魂が形而上のひろやかさにつながっているある喜びを得たい。



30 マハトマ・ガンジー

制作年／1966年

部屋の窓際に大きな老眼鏡をかけたやせこけた白衣の小人が達磨のように坐って、糸車を紡いでいる。こちらの壁際に私は坐る。黙礼して一言もかわさない。寂かな部屋の中にじんじんとして伝わってくるものがある。なんにもいわないで、こんなに人間の存在を強く感じることはない。

マハトマ・ガンジー（1869年～1948年）

インドの民族運動の指導者。インド独立の父。1931年、博厚にロマン・ロランから「ガンジーとの対談に同席するように」との手紙が届く。ガンジーが滞在していた一週間、博厚は毎日ガンジーと対峙した。



31 パラスのトルソ

制作年／1964年

パラスはギリシア神話のアテネ女神の別名で、ホメロスの物語ではいつも「パラス・アテネ」と呼ばれている。



32 水浴

制作年／1961年

真の彫刻とは、心ある者が立ちどまってひとり見るとき、語りかけてくるものである。装飾や建築に従属していた大昔から、彫刻の本質はそうであったのである。

高田博厚作品／主な所蔵先

No.	作品名	所蔵先
1	遠望	福井市美術館 鎌倉文学館 豊科近代美術館 福井県庁 清春白樺美術館 神奈川県鎌倉市
2	大地	福井市美術館 神奈川県藤沢市 豊科近代美術館 群馬県渋川市 福井県立美術館 神奈川県鎌倉市
3	水浴	福井市美術館 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
4	アラン	福井市美術館 秋田県立近代美術館 豊科近代美術館 神奈川県鎌倉市 九州産業大学
5	海	福井市美術館 秋田県立近代美術館 豊科近代美術館 神奈川県鎌倉市 彫刻の森美術館 神奈川県藤沢市
6	女のトルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
7	高村光太郎	福井市美術館 秋田県立近代美術館 豊科近代美術館 神奈川県鎌倉市 高村光太郎記念館
8	カテドラル	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
9	憩い	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
10	女の大トルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
11	在No.2	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
12	ポール・シニャック	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
13	女のトルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
14	タゴール	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
15	女のトルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
16	棟方志功	福井市美術館 豊科近代美術館 神奈川県鎌倉市

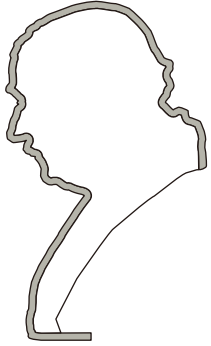
No.	作品名	所蔵先
17	空のトルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
18	新渡戸稲造	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
19	裸婦立像	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
20	宮沢賢治	福井市美術館 もりおか啄木・ 豊科近代美術館 賢治青春館 秋田県立近代美術館 神奈川県鎌倉市 宮沢賢治記念館
21	空	福井市美術館 神奈川県藤沢市 豊科近代美術館 神奈川県鎌倉市
22	憩う	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 九州産業大学
23	男のトルソ (ヘラクレス)	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 九州産業大学
24	女のトルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
25	礼拝	福井市美術館 福井市国際交流会館 豊科近代美術館 神奈川県鎌倉市 新しき村美術館
26	高橋元吉	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
27	在No.1	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
28	女のトルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
29	横たわる女	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
30	マハトマ・ガンジー	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館
31	パラスのトルソ	福井市美術館 神奈川県鎌倉市 豊科近代美術館 秋田県立近代美術館
32	水浴	福井市美術館 豊科近代美術館 東京国立近代美術館 神奈川県鎌倉市

彫刻ができるまで

石膏原型からブロンズ作品を铸造するには、いくつかの方法があります。ここでは、高田博厚の作品のほとんどで用いられている「ロストワックス法」を紹介します。

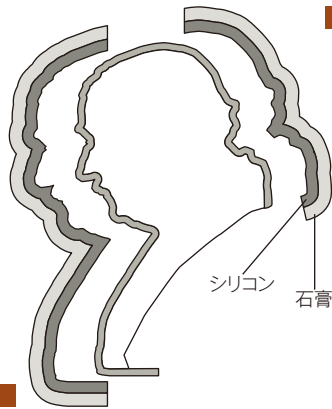


資料提供: 三郷工房



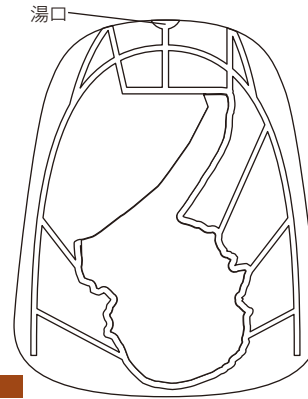
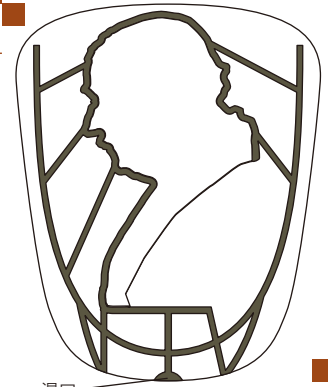
1. 石膏の原型(ブロンズにするものを作成)

2. 石膏の原型をもとにシリコン型を作成。像を横から半分に見切り、前後を作成。



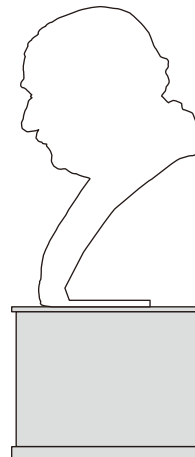
3. シリコン型の前後に蝋を塗り、蝋型の原型を作成。

4. 蝋型原型に棒状の蝋を取り付け、ブロンズを流し込む道(湯道)を作る。また、蝋型原型を耐火石膏で覆い、3日間焼成する。その際に、湯口から蝋が溶け落ち、蝋型原型と同じ空洞が出来る。



5. 湯口を上に向け、そこから溶けたブロンズを流し込む。温度は1200度前後。

6. 流したブロンズが冷めたら、石膏型を壊して、なかのブロンズを取り出す。蝋型原型と同じものができあがる。



7. まわりの棒(湯道)を切り、着色をすると完成。